

東京大学 21 世紀 COE プログラム
先進国における《政策システム》の創出

報告者：T.J.ペンベル教授（カリフォルニア大学バークレー校）

主題："Japan and the Asian Region: Competition or Cooperation with China?"

日時：2004 年 6 月 29 日（火）15 時～17 時

講演要旨：

日本は国内経済面での問題にもかかわらず依然としてアジアの大国であるが、必ずしもその国力に見合った力を発揮していない。歴史的に見れば、日本経済にとって分水嶺となったのは、日本企業が飛躍的に国際化する契機とアジア諸国への海外直接投資の流れを創出した 85 年のプラザ合意であるとする。日・アジア経済関係の発展は、いわゆる「雁行型発展」のイメージの強化と、アジアへの「開かれた地域主義」の導入という二つの傾向を生んだが、これらの傾向は、バブル崩壊、アジア経済危機、中国の台頭によって挑戦に晒されている。最早アジアでの経済的リーダーシップは中国が担っているとする見方が広がっており、日本国内での構造改革の遅れはこうした見方に拍車をかけている。ただ、2001~02 年頃迄は日中経済関係がゼロ・サム的視点から見られていたものの、両国の経済関係の緊密化が経済成長をもたらしたとする見方があるのも事実で、日本の労働集約的産業分野への打撃はありうるが、win-win シナリオとなる見込みはある。（森 聡）